

令和3年度授業改善推進プラン

清瀬市立 中学校 第3学年

	授業における課題や学力調査資料から見た課題	授業改善のための具体策
国語	<ul style="list-style-type: none"> ・話す能力に比べ聞きとる能力が低い数値で、読む能力もこれに比例して低い数値を示している。自らの意見をまとめる点において語彙力の不足が目立つ。漢字や語句の意味は理解できても、表現する時点で言葉の選択、識別が困難になると思われる。 ・文章から事実と意見を識別し、自らの考えや意見を記述する能力が不足している。文学的文章での登場人物の心情変化などの読み取りは充分に対応する能力があるが、説明的文章の要旨を捉える力はない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・語彙を増やすために学力向上テストの内容に、語句の意味や類義語、対義語など言語知識を問う設問を多く入れて実施する。 ・文章の読解能力を維持発展させるため、板書以外に口述筆記の授業展開を意図的に増加する。また、説明的文章の読解の際、段落要旨を短作文で記述する展開を多用する。 ・国語に関する興味関心を高めるGIGA教材や図書館を活用した意欲喚起する授業の工夫を行う。
社会	<ul style="list-style-type: none"> ・基本的には学習に意欲的に取り組む生徒が多い。 ・定期考査の結果から「思考力、判断力、表現力」の資質、能力に課題が見られた。特に多面的・多角的な見方を基に文章でまとめる力に課題が見られた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業の終わりに本時の振り返りを各自に行わせ、学習内容の定着を確実に行う。 ・子どもが主体的に学習に向かい、資料や他者、自己との対話を通して、課題や課題の解決策を検討し、「思考力、判断力、表現力」の資質、能力を高められるような活動を取り入れていく。
数学	<ul style="list-style-type: none"> ・すべての問題について東京都を上回り、計算力などの「技能」は、83%と正答率が高く、毎回の小テストの計算の成果があらわれている。「知識・理解」は70%、「思考・判断・表現力」は50%ほどで都標準の正答率をわずかに上回った。 ・領域別では、関数、統計領域が正答率がやや低い。 	<ul style="list-style-type: none"> ・基礎基本を確実に身につけるためにも、覚えるのではなく、理論的に考え、思考を伴うような積み上げ方を大切にしていこう。 ・関数、統計に苦手意識を持っているので、様々な問題に取り組んでいきたい。
理科	<ul style="list-style-type: none"> ・実験・観察を能動的に受けている結果として、観点での「技能」については高い水準にある。しかし、家庭学習を含めた、復習の徹底による知識の定着ができていないので、「知識・理解」に関しては、さらなる授業の改善が必要である。話し合い活動が十分確保できていないので、自分の意見を発表し、他の意見に触れながら、新たな考えを構築していくことが、不十分である。 ・課題は1年時の復習、単元の終わりや領域ごとに小テストをするなどが必要である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・話し合い活動などの取り組みを多く入れることにより、自分考えや人の考えに触れることができ、知識の定着にもつながっていく。 ・日常的に1年～2年の復習を取り入れていくことで、実験などの技能の習得だけでなく、知識・理解の振り返りができ、復習による基礎・基本の定着につながる。 ・3年の単元が終わった後の時間を利用して、さらに1年～3年生までの総合問題を学習し、現代科学にも触れ、科学の大切さを理解する。
音楽	<ul style="list-style-type: none"> ・意欲的に取り組む生徒がほとんどである。 ・アルトリコーダー演奏は、2年ぶりに再会したため、構え、運指、タンギング等基礎から復習をしたが、コロナ対応で練習時間を少なくしたので、定着が不十分な生徒が見受けられる。・歌唱は、マスク着用下での練習もあり、口の開け方の確認が不十分ではあるが、意欲的に取り組む生徒が多い。・創作はリズム学習の発展として行い成果をあげた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・本時の目標と流れを、黒板の左端に書いておき、始業にそれを使って見直しをもたせたり、終業で本時の振り返りをする。・鑑賞授業や器楽授業でデジタル教科書でくり返し、技法を確認させたり、インターネットを使用して調べ学習をおこなわせ、楽曲にアプローチさせることで、音楽の多様性に気付かせたり、主体的に取り組む態度を育成する。
美術	<ul style="list-style-type: none"> ・活発に活動に取り組むことができる生徒が多い。 ・発想力に差があり、自分を見つめて絵で表すことが苦手な生徒が一部見られる。 ・授業の振り返りワークシートから主体的に学習に取り組む自ら課題を見つけ、解決しようとする意欲が見受けられる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・発想力を身に付けさせるために構成方法やメタファーなどの基礎を教える。多くの知識を教え、自分に合った表現方法を選択したり応用させたりする。 ・制作途中に自己や他者の表現について語ったり、鑑賞する活動をこまめに取り入れる。
保健体育	<ul style="list-style-type: none"> ・運動に苦手意識をもっている生徒もいるが、授業に意欲的に取り組む生徒がほとんどである。 ・課題を解決しようとする前向きに取り組む姿勢が見られる。 ・仲間に対する意識がやや希薄な面があったが、改善されてきている。 ・より自主的に運動に取り組む姿勢をもち、意識を高めていくことが課題である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学習カードを活用し、個々のねらいを明確にして取り組ませる。 ・学習をスモールステップで行い、基礎的な技能を習得して運動の楽しさを味わわせる。 ・チームティーチングを有効活用し、個別に声かけを行い、技能を習得させていく。 ・体育係や班長を中心とした活動を行い、生徒の自主的な学習を促していく。
技術・家庭	<ul style="list-style-type: none"> ・作業に意欲的に取り組み、クラスメイトと教え合う姿がみられる。また、自ら課題を見つけて解決しようとする創造性がある。 ・理論の習得にも意欲的で、学習した事をまとめた表現する事も非常に積極的である。ただし、収集した情報の正確性を検証する事については難しい場面が多く、一度手に入れた情報を正しいと信じて疑わない事が多い。 	<ul style="list-style-type: none"> ・進行管理の意識をもたせながら、他教科との関連を示唆し、学びの奥深さを伝えられるような教科横断的な学習を行う。 ・情報の正確性を検証するために、文中の表現や出典元を確認する能力を育成する。そのためには、学習内容をまとめたレポートや成果物を振り返る事や、ICT機器やインターネットを用いた学習が考えられる。
外国語(英語)	<ul style="list-style-type: none"> ・多くの生徒が意欲的に授業に取り組む様子がある。 ・1年次より継続して単語ビンゴとそのテストを行い、語彙力を高めている。 ・スピーキングにおいては、発表は事前準備もできるためよくできるが、やり取りを苦手とする生徒が多くなる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・今の意欲的な態度を大切に、多彩な活動を授業に取り入れ英語学習への前向きな気持ちを育んでいく。 ・スピーキングのやり取りは帯活動やALTとのチャットなど練習の機会を増やして慣れさせていく。
道徳	<ul style="list-style-type: none"> ・意欲的に授業に取り組む様子がある。 ・昨年度から継続して、自分の考えについて「なぜ」そう考えるかも話したり、書いたりして道徳の価値項目についてより深く考えていく授業作りをしていく必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・発問の中で「なぜ」そう思うかも記述、話すよう促していく。また、一つ一つの発問を時間をかけて考えられるよう余裕をもった時間配分を心がける。
総合的な学習の時間	<ul style="list-style-type: none"> ・「総合」の取り組みでの「修学旅行」(地域学習)、「高校の先生の話聞く会」(進路学習)、「キャリアパスポート」を中心とした自己分析(人権)の活動を通し、課題設定の能力、問題解決の能力、学び方・ものの考え方について、着実に力をつけることが出来た。話し合い活動が思うようにできない状況であるので主体的・創造的な態度が十分とはいえない。今後は進路に向けて自己の生き方を中心に将来に向けて考えられたるようになる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・進路活動を通し、積極的に自己分析ができるようになる。また、修学旅行の調べ学習、話し合い活動によって得られる様々なことから、主体的・創造的な態度を構築していく。また、行事なども制限されていく中で、日常生活から得られる小さいことも積み重ねていく必要がある。